



今回の紙面

- ◆地域医療最前線 NO. 65 《西川病院 荒木正人 院長》
- ◆看護師さんのページ NO. 45 《隠岐島前病院 小泉恵理 看護師》
- ◆研修医のページ NO. 48 《松江赤十字病院 古原 聡 先生》 ◆地域医療フォーラム
- ◆邑智地域の医療を考えるシンポジウム ◆しまね地域医療支援センターの活動を振り返って



御衣黄 (雲南市)

耳にするのと驚かされませんが、人の往来も盛んで、県内だけでなく四国や九州からもたくさんの方が移り住むよう



濱田市は漁業の町として知られていましたが、今を時めくテニスの錦織圭選手の「浜田のどぐろ」の一言で改めて注目され、浜田の海産物のお礼品を期待するふるさと納税額は全国6位です。過去、漁獲量の多かった頃の町の繁栄ぶりを耳にするのと驚かされませんが、人の往来も盛んで、県内だけでなく四国や九州からもたくさんの方が移り住むよう

精神科病院の一つです。病棟は急性期治療、身体合併症治療など機能別8病棟の構成で、ベッド数は408床で運営しています。精神科医療に対する積極的な取り組みから病室の個室化をいち早く実現したことが全国紙に取り上げられたこともあります。



社会医療法人清和会 理事長
西川病院 院長 荒木 正人

当院は県西部の浜田市にある精神科単科病院です。昭和27年の病院開設で、県内では最も歴史のある精神科単科病院です。

地域医療最前線

NO. 65

な町でした。そのため、明るく、開放的、進取的な気風のある町でもありません。

西川病院はそのような環境の中で、精神医療に軸足を置きながら時代に即して変化してきました。現在では病院、「こころクリニックせいわ」「ヴィレッジせいわ」の三つで構成される社会医療法人清和会総体として地域医療、介護、福祉について幅の広い、きめ細やかなサービスを提供しています。

病院、クリニックの治療では、登録医療機関だけが処方許されるクロザリルを含め、適切な薬物療法がなされるように常に検討を繰り返しています。

心理療法、作業療法ではチーム医療の面目躍如、プログラムが充実してきています。特に清和会で長く取り組んでいる社会技能訓練法（SST）は、外来、病棟で幅広く実践されており、最近では柔道を用いたSSTを柔道療法として他県の病院との合同研究発表会で報告するなどし、清和会を活気づけています。地域での生活を支える「ヴィレッジせいわ」は、法人内で展開するチーム医療に奥行きをもたらし、地域に対するアウトリーチとしてのNACIT（西川病院包括的地域生活支援）就労への取り組みとしてのS・IPS（清和会個別就労支援プログラム）などの基盤となりました。

社会医療法人清和会西川病院は「自由・開放・科学」をモットーに世界レベ

ルで評価される精神と身体の医療を目指すことを理念、目標としています。島根から世界へ新たな精神医療を発信しようとする清和会の取組みや心意気に触れていただき、充実感や将来に対する夢をもって業務に当たれるようこびを我々と共有していただければ幸いです。

～まち紹介～

のどぐろ(アカムツ)

浜田市に制定。口の中が黒いことからその名も「のどぐろ」。煮付け、焼きが一般的ですが、極めつけは刺身！



看護師さんのページ

NO. 45

隠岐島前病院

看護師 小泉 恵理

こんにちは。



隠岐島前病院で看護師として働いている小泉恵理です。看護師になって6年目、隠岐へ引越して4年目になります。

私は東京都で生まれ育ったのですが、看護学生だった20歳の頃、当院で行っている看護体験に夏休みを利用して友人たちとともに半分旅行気分に参加しました。

それまでは、「医療」というと、大学病院で行われるような高度で専門的なものを追求…というイメージを強く持っていました。「地域医療」というと、Dr.コトー診療所のような、非常に限られた資源の中で一人の医師が奮闘するというイメージでした。



ところが、隠岐島前病院に来てみると、医師・看護師だけでなく、多職種で地域の生活を支える医療がありました。超急性期から慢性期まで外来・入院患者さんがおられ、往診・訪問看護・訪問リハビリなどの在宅サービスも行われていました。外来や入院、退院後の在宅生活まで、一人一人の生活を隅々まで支える医療を展開されていました。当時、学生ながら非常に印象的

な体験でした。

もう少し当院の取組みを紹介しますと、地域で医療・介護サービス等を利用し生活している方々の情報を共有する場として、医療・福祉・行政が一堂に会し「サービス調整会議」を定期的に行っています。また、退院前には、入院患者・家族・主治医・担当看護師・訪問看護師・ケアマネージャー・施設関係者などを交えた「担当者会議」を行い、在宅生活の調整をしています。

画期的なこととしては、病棟看護師が入院中に担当した患者さんの自宅へ訪問する「退院後訪問」を行っていることです。隠岐の人達は自宅のことを「わがところ」と言いますが、「わがところ」で過ごしておられる退院後の患者さんにお会いすると、その人が本来の居場所に戻られたという印象を強く受けます。それとともに、自分たちが入院中にアセスメントし調整した退院後の生活に問題がないか、アセスメントに不足はなかったのかを確認・再調整する機会にもなっています。

生活を支えるための医療には、疾患を中心に診て疾患を治癒させるためのケアだけではなく、隠岐で暮らす一人の人としてみて、その人の生き方を一緒に考える視点が必要なのだと感じるようになりました。

言うは易く行うは難しで、まだまだチームで奮闘する日々は続きそうです。



NO. 48

松江赤十字病院

1年目研修医 古原 聡



松江赤十字病院(以下、松江日赤)にて初期研修を行っております。古原 聡と申します。

松江日赤は一般病棟552床、精神病棟45床、感染症2床の計599床を有する病院です。平成29年3月現在では、一年目12人、二年目6人の計18人の研修医が切磋琢磨しながら過ごしています。研修医は週2回の研修医カンファレンスに加え、週1回の研修医へのレクチャーなど院内勉強会も多く行われています。

松江日赤で初期研修を始め、あつという間に一年が経過しました。まだまだ一人前には程遠いものの、日々成長を感じる毎日を送らせていただいております。救急外来では軽症の方から多発外傷やACSなどの三次救急まで様々な患者様が来られ、初期対応から経験することができ環境で研鑽を積

んでいます。また各科ローテーションでは多くの科があるため、多彩な症例を経験することもできます。私は指導医に恵まれ、一例一例フィードバックしていただきながら、一人でできる部分を増やせているように思います。他科の先生や看護師さん、検査技師さん、事務の方々などにも気軽に相談しやすいような雰囲気もあり、研修しやすい環境ができていことに有難みを感じます。

私は初期研修医として一年間を過ごし、自分の考えが変わったように思います。研修前は知識量を増やすことがいい医療につながると考えていました。この地でいろいろなることに触れ、患者さんに寄り添う先生の姿を自分の理想の医師像として重ねるようになってきました。研修中にある先生が「時に癒し、しばしば支え、常に慰む」という言葉がある。実際に治療できるのは時々であり治療できないこともある。だけでも、いつも患者さんに会いに行つて寄り添うことはできる。」と教えてくださいました。高齢化が進む島根の地では特にこのことの大切さを感じるのかもしれない。

これからの一年はもつと目まぐるしく早い年を感じると思います。一年後には専門科に進み、主治医をするようになりたいです。不安はつきませんが、それに備え濃い日々を過ごしていきたい、自分の理想とする医師像に近づけたらと

思います。また、後輩ができるという面で新たな立場となりますが、いい影響を与えられるような日々の過ごし方ができるといいなと思っております。

地域医療フォーラム

益田市の医師確保対策の取組みの一つとして、地域医療が抱える課題と将来への展望を市民とともに考える「地域医療フォーラム」を、1月22日(日)に益田赤十字病院講堂で開催しました。

第1部では、周産期医療をテーマとして、島根大学保健管理センター・河野美江准教授による『豊かなこころと性を育む思春期教育』と題した講演をしていただきました。性被害者の偏見をなくすこと、心の傷を負った子どもたちには話を聞いてくれる相談相手による支援が大事であること、今は色々な情報があふれているため、学校などで正しい性教育を伝える必要性などについて、お話しいただきました。

第2部では、島根県益田保健所・川所長の司会で、『益田高校昭和62年卒の医師と考える益田の医療』と題して、5名の益田圏域出身医師の方々(島根大学医学部・林彦多先生、島根県立中央病院・河野大助先生、島根県立中央病院・増野純二先生、益田赤十字病院・林忍先生、益田赤十字病院・中島香苗先生)による発表の後、2名のゲスト(山本益田市長、益田の医療を守る



る市民の会・福場文洋副会長)も加わり、益田の医療について様々な角度から意見をいただきました。益田で医療従事者として働いてもらうためには、短期でもいいから益田に来て知ってもらおう仕組みをつくること、住みやすいまちづくり、スキルアップできる施設や環境が必要であること、益田から離れて経験を積んだり勉強したりすることを認めること、市民から感謝の気持ち伝えることなど、前向きな提案がたくさん出しました。

当日は、看護学生・中学生を含め188名の参加があり、活躍されている出身医師の方々の姿を見て頼もしく感じましたと思います。今後も、医療従事者が働きやすい環境づくりをすすめるとともに、益田の医療を担う人材を育てる取り組みを行ってまいります。

【益田市地域医療対策室 水津】

邑智地域の医療を考える

シンポジウム

2月18日(土)、川本町の悠邑ふる

さと会館において、「邑智地域の医療を考えるシンポジウム」2025年に向けて邑智郡の地域医療とともに考える「」が開催されました。これは邑智郡内の行政や医療関係機関で構成する「邑智地域の医療を考える会」により、団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向けて、住み慣れた地域で安心して暮らすために、住民一人一人が考える機会として開催されました。

まず、産業医科大学医学部の松田晋哉教授に『これからの地域医療が目指すもの』地域医療構想を踏まえて』と題して基調講演をしていただきました。郡内の人口分析や地域資源の状況から、ネットワークを確保した上で、中心地に医療・介護機能などを集約した中山間地域のコンパクトシティ化を進め、賢い「撤退戦」に勝つことの重要性を話されました。

続いて、郡内の医師会や病院などの医療関係者から活動報告がありました。高齢化が進む邑智郡医師会の現状や、邑智郡歯科医師会を中心に「連携は口から」をテーマに取組まれている邑智郡食事栄養支援協議会について紹介されました。また、「地域総合ヘルスケアステーションづくり」に取組まれている社会医療法人仁寿会や、郡内唯一の救急告示病院である公立邑智病院、また地域住民が一体となって取組まれている「公立邑智病院を支援する会」の活動報告もありました。

パネルディスカッションでは、邑智郡出身の地域枠医師や医学生も登壇し、討論が行われました。若手医師からは「医療だけでなく、リハビリ、食事、独居など、まちづくりまでセットで考えないといけない。」などの意見や、「10年後、自分が何ができるの



か考えて背筋が伸びた。この地に帰ってきて、みなさんと一緒に立ち向かう気持ちで新たにしたい。」との決意表明があり、会場からは大きな拍手がありました。最後に松田教授から、医学部教育や医師確保、日本の中山間地域における島根モデルの在り方など、幅広いご助言をいただき、参加された約100人の地域住民の方々と一緒に、これからの地域医療を考える機会とすることができました。

【県央保健所 陶山】

しまね地域医療支援センターの活動を振り返って

安来市の職員として福祉担当部署や市立病院で勤務し、医療への関心が高くなっていった私は、しまね地域医療支援センター(以下、支援センター)へ

の研修派遣の話を聴き、承諾しました。そして平成28年4月から1年間、支援センターで勤務し、地域枠等の入試制度や奨学金制度を学び、臨床研修制度をはじめとする医師のキャリア形成への関わりなど未知の分野を経験いたしました。

「これまでと同じことをしていても変わらない！」と、支援センター専任の先生方や地域の医療機関の先生方からは、常に支援センターの取組みに変化を求められています。平成28年度、支援センターは、研修医や若手医師を県内さらには地域に増やす方法や関係各機関・施設の役割について議論し、またそれらをより実りあるものとするため、研修医の意見をどうやってくみ取るか検討してまいりました。さらに地域医療研修病院ガイドブックの作成、研修事務職員研修会の開催など新規事業にも取り組みました。

4月の初期臨床研修医合同研修会に始まり、6月のしまね研修ナビ、7月の大阪と東京でのレジナビなど各種研修会やリクルート活動、また毎週の支援センター専任医師とのミーティング、企画委員会や臨床研修病院連絡会、圏域別情報交換会など多くの会議や協議を経て、『オールしまね』で支援センター事業を展開していく過程も勉強しました。

これまでの様々な取組みが功を奏し、島根で研修や勤務する医師の数も少し

ずつ増えてきておりますし、支援センターに登録している医師や医学生との面談で、生まれ育った地元や島根でぜひ働きたい、一度県外で勉強してまた島根に戻ってきたいなど、島根の地域医療に対する思いを聴くと本当に心強く感じます。

本県では少子・高齢化の進行と医師の高年齢化で、今後の地域医療を担う医師、とくに若い力が多くの地域で求められています。オールしまねでバックアップし、一人でも多くの若手医師が島根に魅力を感じ、地域医療の最前線で活躍できるよう、平成29年度も事業の見直しや新規事業を計画しておりますので、引き続き皆さま方のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、私自身も1年間という短い期間でしたが、ここで学んだことや出会った人との繋がりを大切に今後の業務に生かしていきたいと思えます。今後ともご指導いただけますようお願い申し上げます。

しまね地域医療支援センター 高木



島根県で勤務していただける方を紹介してください！

友人・知人に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた先生には、医療機関の情報等を提供し、U・Iターンを支援します。

医師募集・地域医療視察ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアー（県負担）を実施しています。お気軽にお問い合わせください。

平成28年度(実績)

面談件数	14件
視察ツアー	8件
招へい人数	9名



島根県医療政策課医師確保対策室職員紹介 皆様、よろしくお願ひいたします。



平成29年4月4日 島根県民会館前にて

「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願ひます。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室
TEL 0852-22-5693 FAX 0852-22-6040
E-Mail iryuu@pref.shimane.lg.jp
ホームページ：

